

編輯後記

◆先頃結成を見た日本文學報國會に出席した東條首相は、我が大戦果擴充のためには愈々日本精神の昂揚に努めねばならぬ、それが爲には日本精神を基調とした文學が創作されるべきであると、その祝辭中に述べられたと聞く。新しい日本文學の出現は、元より我等も期待するところであるが、それと同時に我が淨瑠璃の如き國民性を語る文學も亦この際改めて見直す必要がある。即ち淨瑠璃に於ける日本精神、作者その人の日本精神、或は淨瑠璃に現はれた民族行動、文化政策としての淨瑠璃等、検討すべきものは尠くないと思ふ。

◆日本語の大東亞共榮圈普及といふ建て前からであらう、漢字の制限や簡易化や假名遣ひの新制定等が唱導されてゐるが、頭から悉くは賛同しかねる。例へば六甲をろくかうでなくろつこうとするが如きで、かやうな場合には片假名を併用してゐるツとすることがまぎらしくはない。併し本當は發音に依らず、字音に基づくべきであらう。又水の假名がミヅでなくミズなのもどうかと思ふ。

東北人？なぞははつきりツの濁音で發音するのを聞いた。漢字の簡易化も草行を根柢とした路字を基とすべきで、賣の字、對の字の如き「當テ字」まがひの略法は餘りに易きに即き過ぎる傾がある。

◆改裝表紙については好評を博してゐるが、これに挿入した突込人形の圖と、その解説とは同人祐田善雄氏の撰並に執筆になるもので今月は手妻人形である。こうして毎號古番附或は繪づくし等から適當な圖を選びこれに解説を加へることによつて人形三人造に至る歴史を闡明する豫定であるが、これが單なる解説でなく、同氏の不斷の研究に依つて、必ず新説を含んでゐる點に御注目あり度い。

◆尙ほこの四百十一號は、前號からの續き合ひから云へば七月號である筈だが、月末發行の爲め讀者諸兄の御手許に入るのが八月となる關係から、本號に限り、一ヶ月を飛ばして八月號として、以下順を追ふこととなつた、御諒承を乞ふ。

(編輯部一林、大西、三木)

淨瑠璃雜誌 第四百十一號

(昭和十七年八月號)
(毎月一回三十日發行)

●定價誌本 一部 金五十錢
半ヶ年 金三十圓
十二冊 金五圓

○御注文は一切前金の事
○雜誌發送を以て領收證に代ふ
○外國送りは一冊に付郵税十錢を要す
振替は浪花名物淨瑠璃雜誌社。
口座大阪二三九二八番

廣告料

普通	一行	金三十錢
二等	一行	金二十圓
一等	一行	金二十圓
特等	一行	金三十圓

○特等は一頁以下の需に應ぜず六回以上の特約には割引す
○製版を要する時は其賞費を申受く
○廣告料は總て前金の事
○一行九ポイント活字

大坂市西成區千本通二ノ三三
發行所 樋口虎之助
編輯人 坂口秀吉
印刷所 高尾印刷所
大坂市西成區千本通二ノ三三
發行所 淨瑠璃雜誌社